

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2692700046		
法人名	社会福祉法人大樹会		
事業所名	やすらぎ苑しょうちゃんの家		
所在地	京都府舞鶴市宇安岡小字中山1076		
自己評価作成日	平成23年3月1日	評価結果市町村受理日	平成23年7月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://kohyo_kvoshakyo.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2692700046&amp;SCD=320">http://kohyo_kvoshakyo.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2692700046&amp;SCD=320</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル		
訪問調査日	平成23年4月26日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

出掛ける機会を多く作り、地域やなじみの人とのつながりを大切にしている。外に出ることで生活が活性的、元気で穏やかな生活になっている。常に利用者の思いに耳を傾け、本人の望みが実現できるように支援している。玄関や自室の掃きだし窓は常に開いており、自由で伸び伸びとした環境を提供している。認知症対側として公文楽習療法に取り組み、楽しみの一つになっている。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

利用者が昔住んでいた頃のような土壁や引き戸、障子を用いて落ち着いた雰囲気のある建物です。ホームの理念である出かける事や人とのふれあいを重視し、希望に沿ってふる里や育った場所を訪ねたり、会いたい人と会えるよう支援しています。地域の住宅とは近隣には少し離れていますが、回覧板を通じてホームの情報を伝えたり、参加できる行事には利用者と共に出かけ地域交流を図っています。他のホームとの交換研修を通じて同業者と交流を図り、日頃のケアを振り返る良い機会となり、アイデアをホームに取り入れたいと思っています。また多くの研修を通じてスキルアップを図る等、法人の教育体制が整っています。利用者は外出や家事等好きな事を職員と一緒にやることで、開所から3年目を迎えても体力の低下がほとんどなく、家族にとっても安心出来るよう取り組んでいるホームです。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) ○
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) ○		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝のミーティングで全員で唱和し理念の確認を行っている。	事業所独自の理念は、利用者が職員と共に普段の生活を尊重しつつ出かける機会を多く持ち、地域において当たり前の社会生活を送ることを目標としている。理念は利用者が清書して掲示され、職員は毎朝の唱和や会議の中で振り返り、確認しながらケアにあたっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入して地域の行事に出掛けたり、法人や事業所の行事を回覧で地域に知らせて参加してもらっている。場所的な事も有り日常的な交流には至っていない。	地域の敬老会や小学校の運動会に招待され参加したり、保育園児との相互訪問を通じ交流している。法人の餅つき大会や夏祭り、花見会には地域の参加を得ている。ギターやマジックショー等地域のボランティアを受け入れている。また認知症の専門家として地域の相談窓口を開設している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	月1回発行の機関誌を町内に回覧で回してもらったり、シルバー110番(認知症相談所)の看板を玄関に設置して地域に呼び掛けている。入所申込時に相談に応じたり支援の方法を伝えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回開催して活動報告を行ない、参加者から地域の情報を得てサービス向上につなげている。	運営推進会議では、参加者にホームの様子を写真で公開したり、活動や現状について報告している。また行事への参加など地域との関わり方やボランティアとの協力体制について話し合わせ、地域の情報を得たり課題について話し合い有意義な会議となっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に参加してもらい日頃の取り組みを伝え、また行政の情報を得て協力関係を築いている。	市担当者の運営推進会議への出席もあり、出向いたり電話で相談している。また法人の行事の際にも市担当者が来訪し連携を取っている。市から依頼された介護相談員の定期的な訪問も受け入れている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間以外は玄関は開いており、自室も自由に外に出られる状態である。身体拘束は行なっていない。身体拘束について内外の研修において学んでいる。	職員は法人の研修を通じ、身体拘束について学んだり、ホームの会議で行動以外にも言葉の制止もしないよう確認し合っている。日中の鍵はかけず、居室の掃き出し窓も開け閉めが自由に出来るなど、外に出たい時にはいつでも対応できるよう努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修で虐待について学び防止に努めている。		

やすらぎ苑しょうちゃんの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居者1名は成年後見人制度を利用しており、定期的に行行政書士が訪問されている。制度について理解している職員が分かっている範囲で説明している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時だけでなく、入所後も契約に関する不安な事や疑問点を聞き、説明に努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	アンケートを実施してその結果を機関紙で公表して意見、要望を表せる機会を設けている。また、意見受付箱を常設している。	家族の意見は来訪時に時間を設けて聞いたり、行事の際や家族の協力を得て行う大掃除の際に家族交流会を開き、意見や要望を聞いている。必要に応じ会議等で話し合い、改善結果は法人の広報誌を通じ家族に報告している。利用者には出かけた所やしたい事を聞き、個別外出等に繋げている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議やリーダー会議、各職員からの施設長への要望書、人事考課表の記入により意見を聴く機会は多く有り、また反映する体制がある。	毎月の会議の中で職員が意見を出し合ったり、連絡ノートを通じて情報交換を行い、アイデアや意見を運営に反映させている。個別で管理者や法人に意見を述べたり、悩みを相談するなどの体制も整っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課表や、施設長への要望書等で把握して、多くの研修の機会やリフレッシュ休暇などを設けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の機会は多く有り、各職員のレベル(経歴等)に合った研修に参加してもらっている。また良いチームワークを作ることによって新人の育成につながっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	府内や市内のグループホーム連絡会に加盟してして毎回研修会に参加している。連絡会主催のシルバーオリンピックや職員交換研修等を行いサービスの向上につながっている。		

やすらぎ苑しょうちゃんの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	訪問や施設見学時に本人の思いや意向を聴き不安を取り除くよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の不安や要望をしっかりと聞き、信頼関係を築く様にしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所申込時に他法人事業所の紹介や他のサービスの紹介も行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々のケアのなかで本人に何ができるか、どんな事を好むかを把握し、個人に合った作業を共に行なっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	密に家族と連絡を取り、本人の状態を報告して信頼関係を築き、家族にしかできない支援を理解してもらい協力してもらっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出する機会を多く設け、近所や馴染みの人とのふれあいを大切にして、本人の行きたい所(生まれ故郷等)へ出掛けている。	親戚や近隣の方がホームを訪ねてくれたり、自宅を見に出かけたりしている。利用者の希望の実現に向け、地域の祭りや墓参りに出かけたり、馴染みの美容院やスーパーへの買い物を支援している。また個別外出の日を設け、ふるさとに家族と共に出かける等、希望に沿って支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共同生活の中で一人ひとりが自分らしさを出してもらえる様に、職員が間に立ち、良い関係が築けるよう努めている。		

やすらぎ苑しょうちゃんの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了者はないがフォロー体制はある。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	各利用者に担当職員を設け、また担当に限らず個別ケアの機会をつくって希望を引き出しやすい環境を作っている。	日々の会話の中でやりたい事や行きたい所等を聞き、思いの把握に努めている。また家族から情報を得たり、メニューや外出先もいくつか提案した中から選択してもらうなど、自己決定を尊重している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	自宅訪問や本人、家族から情報を得て記録に残し、職員間で情報を共有し、これまでの暮らしを把握することに努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎朝のミーティングで前日の様子の報告を行ない、本人の心身状態の把握に努めている。毎日、日誌に様子を記録している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者及び家族の意向を確認し、毎月定例会議で各利用者について細かく話し合い、それをもとに介護計画を作成している。	事前に本人や家族に希望や意向を基に、毎月の職員会議には法人の看護師と栄養士も参加してカンファレンスを開き現状に沿ったケアプランを立てている。ケアプランは3ヶ月毎にモニタリング、評価を行い、半年ごとの再アセスメントを行いプランの見直しに繋げている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子をケース記録に残し、毎朝のミーティングで報告し情報の共有を図り、ケアの実践に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	併設の施設で行われているクラブに参加したり、散歩や買い物、ドライブ等、その時々にある利用者の要望に添っている。1月より公文楽習療法を取り入れている。		

やすらぎ苑しょうちゃんの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事に出掛けたり、地域の保育園の訪問やボランティアの受け入れ等行なっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	週2回かかりつけ医の往診がある。また状況に応じて他の医療機関への受診を行なうなど、医療機関との連携は出来ている。	入居時に家族と相談してかかりつけ医を決めているが、全利用者が医師でもある法人理事長をかかりつけ医としている。専門医への受診は家族がいけない時や必要時に職員が通院に同行している。また職員でもある看護師が日々の健康管理に当たっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日看護師がバイタルチェックを行っており、週2回は主治医と共に顔なじみの看護師の訪問を受けている。月1回の会議にも看護職員が参加して情報交換を行なっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時職員が付添い経過を報告し、また病院からの情報をしっかり得ている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取り、終末期対応の方針を決め、家族に説明を行ない、同意書もらっている。	ホームでは希望があれば家族の協力を得て看取りをする体制があり、「看取り・終末期対応に関する同意書」を作成し、家族に同意を得ている。職員間でも方針について話し合ったり、研修の中でターミナルについて学ぶなど、方針の共有を図っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	夜間や緊急時でも対応できるように緊急連絡網や看護師の緊急連絡対応も出来ている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	併設施設との合同避難訓練を行なっている。また消防設備の点検を受け安全に努めている。5月に地元消防団との合同訓練を予定している。1月にスプリンクラーを設置している。	年に2回の避難訓練のうち、一度は消防署の指導を受け、法人と共に夜間を想定して行っている。また今年度は地域の消防団の協力を得た訓練を予定しており、地域との協力体制についても地域の方々と話し合っている。	

やすらぎ苑しょうちゃんの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報取り扱いについては使用に係る同意書にもとずき保護している。入浴は個室であり、トイレや自室の内部には鍵が掛かっている。言葉づかいは馴れ馴れしくならないよう常に気をつけている。	職員は法人のマナー研修も受講し、ホームでも伝達研修を行っている。トイレ誘導の際は小声でそっと声かけするなど、プライバシーに配慮している。時には利用者に対して馴れ馴れしくなっている場合もあり、管理者がその都度個別に注意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いを聞き出す事に努め、自己決定を尊重している。決めにくい事があれば、選択肢を設け選んでもらっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の意思を尊重し、希望にそった支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	一緒に買い物に行き、好みの服や化粧品を買いおしゃれを楽しんでもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立や買い物、調理、食事準備等、利用者と共に行ない、利用者の好みや出来る事の支援ができています。利用者の好きなものを買って、献立が変わる事も再々ある。	利用者の希望も取り入れた献立を立て、一緒に買い物に出かけ旬の食材を選んでもらっている。誕生日には希望のケーキを手作りしたり、味噌作りや巻き寿司等と一緒に作っている。食事時間は職員は利用者と共に食卓に着き、談笑しながら楽しい時間となるよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	記録により食事摂取量や水分量を把握しており、個々の好みに応じた支援を行なっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、お茶をしっかり飲んでもらうことを心がけている。食後自分で入れ歯を濯ぐ利用者もある。就寝前は本人の力に応じた口腔ケアができています。		

やすらぎ苑しょうちゃんの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	その時の状態に応じた対応を行なっている。トイレの掃除もこまめに行い気持ちよく使用してもらえるようにしている。	定期的な排泄の誘導が利用者のストレスに繋がらないよう配慮しながらも、日中は車椅子の利用者も含めトイレでの排泄を支援している。夜間は睡眠を妨げないよう、個々に合わせた対応を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	散歩、体操などの運動や水分摂取の声掛け、食物繊維の豊富な食材、乳製品等を使った食事の提供に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	いつでも入浴してもらえる様にしている。その上で本人の意向やタイミングを大切にしながら入浴を楽しんでもらえるよう努めている。	基本的に午後からの入浴となっているが、希望に沿って午前や毎日の入浴も可能で、夜の入浴も希望があれば職員の配置を変更して対応することも可能である。拒否が見られる利用者には体重測定を兼ねて誘導するなど声のかけ方を工夫したり、他の利用者に誘ってもらうなどして対応している。入浴剤を使用したり、ゆず湯もとりいれ利用者に楽しんでもらっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	それぞれが好きな時間に休息出来るよう、その都度対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者の病名や薬、薬の目的や副作用を書いた表を薬箱の横に貼り、職員が把握できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴を把握し、また対話の中から本人の楽しみを見つけ出し、期待に添える様にしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎日の買い物は行きたい人が行き、散歩や、同敷地内施設や地域の行事参加など、外出の機会を多く設けている。家族から情報を得て生まれ故郷への外出も行っている。	天気の良い日は日常的に散歩や日用品などの買い物に出かけている。利用者の希望に沿って家族の協力を得て馴染みの場所に出かけるなど、個別の支援も行っている。また行事として花見や花火見学等に出かけたり、今年度は利用者と職員が共に一泊旅行に出かけるなどの企画を立てている。	



やすらぎ苑しょうちゃんの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一緒に買い物に行き、本人の欲しいものを買ってもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じ、事業所の電話の子機を使い掛けてもらっている。3ヶ月に1回の家族あての事業所便りには本人に手紙を書いてもらっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を飾ったり、季節に合わせたかざりつけをしている。照明も利用者の好みに合わせている。	ホームでは利用者や職員が活けられた花を各所に飾り、庭に野菜や花を植え季節を感じることが出来る。天井が高く天窓から光や空気を取り入れたり、加湿器や床暖房の設置による配慮もなされている。また筋力低下を防止するため、余分な手すりは設置していない。掘りごたつのある和室で談笑したり廊下にソファを置き1人になれるスペースを確保している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間の他に人目のつかない場所にもソファがあり、思い思いに過ごしてもらっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や馴染みの物を持ち込んでもらい、本人の好みや使いやすさでレイアウトして居心地良く過ごしてもらっている。布団も本人や家族と随時相談をして使用している。	掃き出し窓があり、引き戸の居室は昔の家を思い起こし、落ち着いた雰囲気である。利用者は自宅よりベッドやテレビ、タンス、テーブル・椅子等を持参し、生花を飾ったり、暖簾をかけたりしている。希望により畳を敷くことも可能である。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの力を把握した上で、手すりは要所にだけ設け、トイレやふろ場の場所も表示していない。		